

インタビュー

J. Jpn. Soc. Colour Mater., 98 [7], 176-178 (2025)

ー特別インタビュー 色材や界面制御に関する今後の動向ー

色材研究の過去・現在・未来 (広島大学 大山 陽介教授*へのインタビュー)

聞き手：DIC(株) 重 廣 龍 矢**

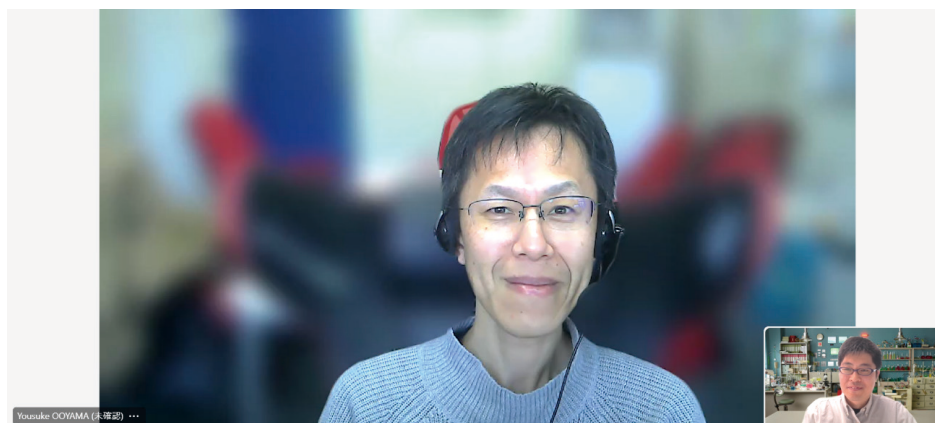
*広島大学大学院先進理工系科学研究科 広島県東広島市鏡山1-4-1 (〒739-8527)

**DIC(株)バイオ素材開発グループ 千葉県佐倉市坂戸631 (〒285-8668)

要 旨

近年、環境対応(脱炭素化、エネルギー問題)など地球規模で世の中が目まぐるしく変化しています。これらは経済のみならずわれわれの生活様式にまで多大な影響を与えています。同様に色材や界面制御に関する研究においても、この大きな社会変化への適応が求められています。そこで本誌では、小特集企画として「色材や界面制御に関する今後の動向」と題し、当分野において最先端で活躍される方々にインタビューを行い、今後の研究動向や社会動向などに関する考えを不定期の連載形式で紹介しています。

今回はその第4回目として、色材の研究に関して幅広い経験・知識をお持ちである広島大学の大山陽介教授にインタビューを行いました。大山先生は有機化学などが専門で、現在は有機色素の合成および物性評価、そして多岐に渡る応用検討など、新たな研究分野開拓を目指して色素の新機能を発掘することに日々、挑戦されております。



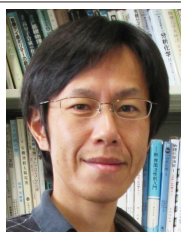
オンラインインタビューの様子

1 インタビュー

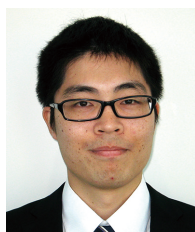
ー 本日はお忙しいところ、お時間いただきありがとうございます

ます。よろしくお願いいたします。

大山 よろしくお願ひいたします。



〔氏名〕 おおやま ようすけ
〔現職〕 広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授
〔趣味〕 妻との晩酌、娘達と遊ぶこと
〔経歴〕 2005年高知大学大学院理学研究科博士後期課程修了(博士(理学))。2005年広島大学大学院工学研究科助手・助教、2011年同准教授、2017年同教授、2020年より現職。



〔氏名〕 しげひろ たつや
〔現職〕 DIC(株)バイオ素材開発グループマネジャー
〔趣味〕 草野球、バスケ観戦、将棋、旅行など
〔経歴〕 2009年より大阪府立大学(現：大阪公立大学)にて有機電界発光デバイスを指向した発光材料などの研究に従事。2015年同大学院工学研究科博士後期課程修了。同年DIC(株)入社。高付加価値～汎用顔料の開発研究を歴任後、2021年よりバイオものづくりの精製工程(DSP)を担当。

1.1 コロナ禍の振り返り、ポストコロナにおける研究動向

ーすでに収束感のある新型コロナウイルスがもたらしたものに
関して、コロナ禍から振り返りをさせていただきたいと思
います。国内では2020年4月に緊急事態宣言が全国に出まして、
事実上のロックダウン状態になりました。先生の研究室ある
いは大学への影響はいかがでしたでしょうか？

大山 コロナ禍は大学に來られなくなったのですが、研究室
では二交代制にして、研究活動が続けていました。授業などは基
本オンデマンド*1で対応し、学生実験に関しては十分な換気
をとって、なるべくオンサイトで実施しました。また、一部の
オンサイトを希望しない学生には、録画した実験動画を視聴し
てもらい、レポートを提出してもらおう対応をとりました。

ー ポストコロナはいかがでしょうか？

大山 ポストコロナのほうが大変な印象で、とくに2020年当

【図表について】電子ジャーナルサイト「J-STAGE」ではカラーでご覧
いただけます。https://www.jstage.jst.go.jp/browse/shikizai-char/ja/